

担い手の確保に向けて

大淀町農業委員会

1. 大淀町の農業の概要

大淀町は奈良県のほぼ中央部、吉野川の北岸に位置しており、地形は東西に長く北部は山林、南部は国道169号線に沿って帯状の市街地が、中央部には新興住宅地が広がりを見せています。農業地域としては、西部の丘陵地に果樹園が集中し、梨の特産地として発展しており、東部では水田を中心とした農業や茶の他、果樹園など施設園芸が営まれています。

毎年11月頃には町の恒例行事である農林産物品評会・即売会が開かれ、出品される農作物は審査員や住民の方々から例年好評を得ております。



2. 農業委員会の取組み

大淀町では近年、販売農家数の顕著な減少・農業者の高齢化・担い手不足などから、経営耕地面積は減少する一方であり、耕作放棄地の増大による周辺環境への悪影響も懸念される状況となっています。

そこで、大淀町農業委員会では農地パトロール活動と併せて耕作放棄地意向アンケート調査を行い、アンケートの結果をもとに農地の貸付け希望者に対して担い手バンクシステムへの登録や農業経営基盤強化促進法による

利用権設定の推進を図り、耕作放棄地の解消・担い手の確保に努めています。

また、県内で農業者年金の加入推進活動が進められるなか、大淀町においても平成22年に開催された農林産物品評会で制度のPRやパンフレットの配布を行いました。



3. 今後の課題

大淀町においても例に漏れず、耕作放棄地の解消・担い手の確保が主な課題となっています。しかし町内の現状は、農業者の高齢化・若者の町外への流出による後継者不足により、特に担い手の確保に関しては深刻な状況にあります。

そこで注目すべきなのは、町外からの就農希望者です。大淀町では中心事業の一つとして定住促進事業が展開されていますが、大淀町への移住希望者の中には「農業をしながら暮らしたい」と考えている方も多く、農業委員会としても行政との連携を図りながら町外からの就農希望者に対する受け入れ態勢を整えていくことが必要であると考えています。